

# TCTAP (心臓血管カテーテル国際学会アジアパシフィック)

## 今年で20回目を迎える歴史ある心臓血管に関する学会



2015年4月28日～5月1日に韓国ソウルにおいて、心臓血管カテーテルの国際学会であるTCTAPが開催された。今回は第20回目の記念すべき大会であり、開催国である韓国をはじめとして、日本、中国、マレーシア、シンガポール、インドなど、アジア全域から、数多くの循環器を中心とする専門医が集まる大会となった。

今年で第20回目を迎えるTCTAP2015

会場では、多くの部屋に分かれ、研究発表やシンポジウム、ワークショップ、心臓カテーテル再建術のライブ中継など、心臓血管に関する様々な発表が行われた。

TCTAPでの発表風景



## 「MCGはスクリーニングに非常に有効」と研究発表

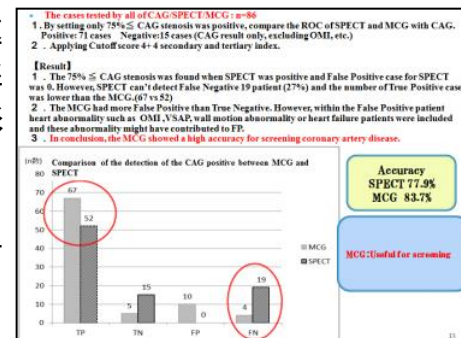


研究発表を行う角谷誠医師  
(加古川東市民病院)

アジア各国から様々な研究発表がなされる中で、今回、MCGに関する日本の研究が発表された。発表者は、角谷誠医師（加古川東市民病院）。発表の題名は、「Comparison of a Two-Lead, Computerized, Resting ECG Signal Analysis Device, the Multifunction-CardioGram (MCG), to Coronary Angiography or MDCT, SPECT for the Detection of Relevant Coronary Artery Stenosis」(冠動脈疾患診断におけるMCG解析の有用性)である。

角谷医師は、95名の被検者に対して冠動脈造影検査と核シンチグラフィー、MCGを実施し、その結果を比較を比較し、MCGの高い正答率が発表された。

インタビューにおいて角谷医師は、「現在の高い正答率を示す冠動脈疾患の検査はいずれもなんらかの侵襲を伴うものであり、腎機能や年齢、ADLなどの患者背景に影響され、簡便に行うことができない」と述べる一方、「MCGは安静心電図と同じ非侵襲でありながら、高い正答率を示し、冠動脈疾患のスクリーニングに非常に有効であると思う」（角谷医師）と述べ、MCGへの期待を寄せられた。



(研究発表内容の一部)